

千葉県環境審議会鳥獣部会アライグマ小委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 令和8年1月15日（木）
午後2時から午後4時
- 2 開催場所 森林会館 会議室
千葉市中央区長洲1-15-7
- 3 出席者
【委員】 浅野玄委員（委員長）、加藤卓也委員、草刈秀記委員、鈴木良明委員
西村壽委員、宮城武委員、富澤知行委員
【県】 渡部自然保護課長、城之内副参事（鳥獣対策）、他自然保護課職員
- 4 議案
議案第1号
第3次千葉県アライグマ防除実施計画の策定について
- 5 審議結果
上記4の議案について審議がなされ、原案に修正を加えたうえで、再度各委員に審議を諮り、別添修正議案により議決された。
- 6 その他
第1号議案については、令和8年3月11日開催予定の千葉県環境審議会鳥獣部会での審議が必要であるため審議結果を報告する。
- 7 主な質疑・意見

問

参考資料2のモデル事業では9～10月の捕獲が効果的となっているが、資料1で推奨されている時期と異なるのは何故か。（加藤委員）

答

モデル事業の捕獲は1年通しての結果ではなく、事業実施時期の中で捕獲の多かった時期を示したものと思われる。資料1では年間を通して捕獲効果の高い時期をお示ししている。（事務局）

意

本来であれば、生物多様性千葉県戦略を改定した上でということかとは思いますが、背景及び目的の中にネイチャーポジティブに関する記述を加えたらどうかという提案。ネイチャーポジティブについては、色々な場所で動きが出てきているが、熊本県でも、今年の7月に第2回グローバルネイチャーポジティブサミットが開催される予定であ

り、外来生物等の影響を排除して、生態系の回復を目指すという大きな流れだと思うので、アライグマについても生物多様性の回復を目指す目的にしていくことが必要ではないかと思う。防除した地域の生物層がどのように回復しているか、モデル地域を幾つか作って実施してみてはどうかと思う。奄美大島でもマングースの根絶が成功して、希少種が復活して生物性が回復している。(草刈委員)

答 背景及び目的に記載できるか検討する。(事務局)

意

生態系被害について、目標に書かれてないのが気になる。現状として生態系被害についてのデータが少なく、記載の難しいところかと思うが、農業被害や生活環境被害だけが書かれているというところで、防除実施計画としては本来の目的でないところが強調されてしまっている。背景も踏まえて、或いは第三次計画を進めていく中で、生態系被害についても、捕獲をすることによって、抑制できたということを見据えて注力して欲しいという思いはある。(浅野委員長)

答 目的に記載できるか検討する。(事務局)

問

(モニタリング調査等の中で) アライグマの胃内容物調査等(生態系被害の把握の意味合いで)はしているか? 特に保護が必要な希少動物について、胃内容物の調査等も含めて、積極的に情報を取っていく必要がある。普通種が希少種にならないようにするのも重要。(草刈委員)

緑地や公園管理者等に聞き取り調査等を実施すると、生態系に係る影響について情報が得られることもあるので、検討してほしい。(浅野委員長)

答 胃内容物の調査を実施したことはない。聞き取り調査も含めて、今後実施を検討したい。(事務局)

意

P5 生態系被害に関する記述について、調査方法や二枚貝の種類等、詳細について記載をお願いしたい。(加藤委員)

答 記載する。(事務局)

意

アライグマ処分施設におけるモニタリング調査の中で、体重については体重計で測定した上で、データを散布図に落とし込むと、より正確でわかりやすい結果が得られると思う。

千葉県は鳥獣被害防止の枠組みでの捕獲が多く、外来生物法による捕獲が少ない。これはある意味チャンスだと考えており、被害対策による捕獲ではない部分を支援するなどして伸ばしていくことを検討してほしい。(加藤委員)

有害鳥獣捕獲と外来生物法の防除を上手く使い分け、より効率的に個体数を抑制できるような対策をお願いしたい。こうした状況は他県でもよく見られるため、千

葉県だけが被害防止の区分での捕獲が多いという訳ではない。ちなみに（捕獲を担う市町村として）印西市では、鳥獣被害防止と外来生物法による防除の使い分け等はしているか？（浅野委員長）

その点については特に意識して捕獲を行っていないのが実情と思われる。（富澤委員）

答 今年度から開始する従事者養成講習会を始めとして、外来生物法による捕獲について周知を図っていく。（事務局）

意

重点捕獲地域の設定は誰がやるのかということで、市町村がメスの捕獲報告が多いところを重点捕獲地域として設定するような想定か。県の方で、捕獲データをもとに、地図上で設定し、捕獲努力量を上げてもらうような想定か。どちらかが主体化明確に記載した方が良い。（加藤委員）

答 捕獲については基本的に市町村が実施することもあり、県の方から研修等を通じて、市町村に区域の設定方法を伝えて対応してもらう想定。記載に反映する。（事務局）

意

書きぶりとして難しいとは思いますが、捕獲数が多い地域はそれなりに捕獲にリソースが割かれている場所であり、短期集中的な捕獲効果も見込まれるが、捕獲数の少ない＝分布が低密度な地域の増加を抑えるという意味では、捕獲数が少ない地域も無視できない。データを取りながら臨機応変に対応する必要がある。捕獲数や性別のデータがないとできないので、記録を取る重要性和併せて市町村との情報交換をしっかりとってほしい。捕獲データを無理のない範囲で県内広く取っておくと、捕獲の効果を検証することに繋がり、第4次計画の立案にも効いてくる。市町村に積極的に依頼してデータを収集してほしい。

県の処分施設に搬入のあった個体からは市町村では取りにくいようなデータを継続して取ってまとめておくと次期計画にも役立つ。（浅野委員長）

捕獲数が単純に多い箇所だけに力を入れるだけでなく、時期も考慮して捕獲を推奨してほしい。（加藤委員）

答 モニタリング調査を継続すると共に、効果的効率的な捕獲について啓発していく。（事務局）

意 繁殖時期の雌を捕獲することは、個体数抑制に効果的。被害のない場所や時期でも外来生物法による防除が可能なので、推奨してほしい。県内のデータからも繁殖時期が推定できているので対応できると思う。ただし、雌だけを選択的に獲る方法はないため、その時期に捕獲圧を高めるような工夫が必要。（浅野委員長）（加藤委員）

答 効果的な捕獲時期等について講習会等で周知していく。（事務局）

問 担い手の確保について、捕獲従事者の内訳について解析等はされているか。防除計画では講習の実施によって、狩猟免許がなくてもわなによる捕獲が可能であり、それを活用していくことと思うが、第1次、第2次でも制度自体はあったと思うので、第3次で変わったことについて記載があると良い。(浅野委員長)

答 捕獲従事者の内訳の解析については今後検討が必要なところ。従事者養成講習会の実施について、市町村を通じて広く周知する。

問 低密度地域の対策でアライグマ探索犬が話題に上るが、最近の状況はどうか。(草刈委員)

答 最近の情報なし。積極的に導入している地域等についても把握しているところはない。(浅野委員、加藤委員)

以上